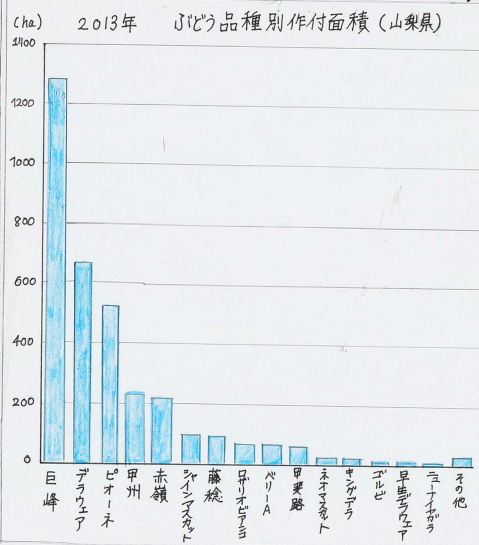
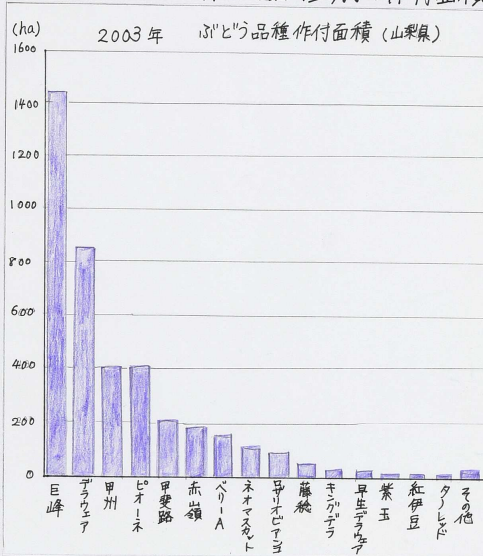


品種別県産ぶどう作付面積の移り変わり

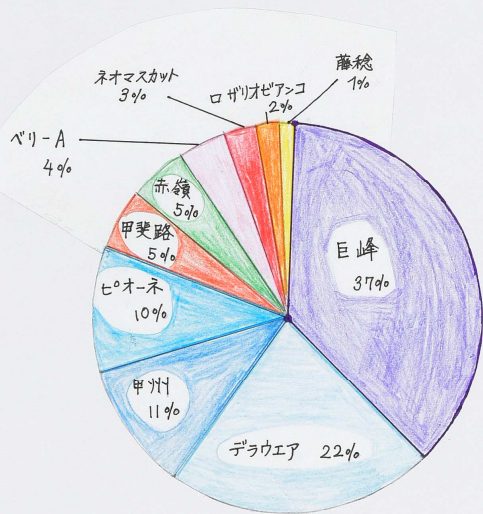
調べようと思った理由は祖父母がぶどうの栽培を行っていて、今年の夏に新品种の『ブラックビート』を持ってきてくれた時に他の品種はまだ作っているのかと気になったからです。それで山梨県の品種別の作付面積について調べることにしました。(生食用)



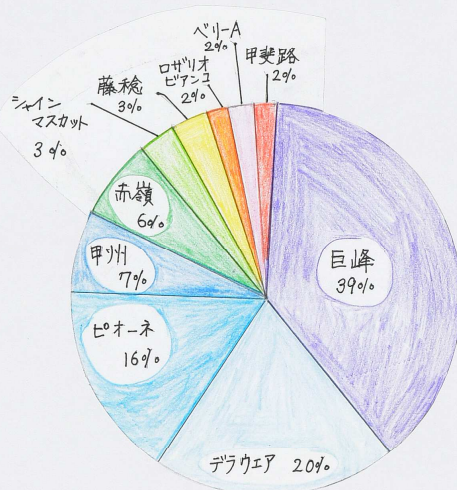
グラフから分かること①

巨峰の作付面積はどちらも1位であるが、作付面積は10年間でおよそ200ha減少している。また、第2位のデラウェアは860haから665haまで10年間で減少している。2003年には甲州が3位でヒオオーネが4位だったのにたいして、2013年には、ヒオオーネが110ha増えて3位になり、甲州は約200ha減少して4位になった。このグラフから生食用ぶどうの作付面積自体が10年間で減少していることが分かる。10年前にはなかったシェインマスカットが出てきて、紫玉・タノシムが姿を消していることも分かる。

2003年度 ぶどう作付面積上位10品種の割合



2013年度 ぶどう作付面積上位10品種の割合



グラフから分かること②

このグラフは作付面積上位10位のものの割合を、グラフ化したものである。巨峰の作付面積は10年間で2%増えているが、デラウェアは2%減少している。ヒオオーネは10年間で6%も増えて甲州をおえ3位になったが甲州は4%減少し4位に下がった。10年前は5位だった甲斐路も今では10位へと下がってしまつた。逆に、10年前は10位だった藤稔が今は7位になった。また、10年前は10位以内に入っていたネオマスカットが今は11位となり、10年前にはなかった新種シェインマスカットが6位になっている。ロザリオビアンコや赤嶺は今も昔もあまり変化していない。このグラフから時代と共にぶどうも消費者のニーズに合わせて作られていて、シェインマスカットなどの品種改良された新種も人気の一つになってきている。しかし、一番の人気の今も昔も巨峰であることは変わらない。

知人20人に聞いた好きなぶどうランキングへ複数回答へ

第1位	巨峰	14人	第5位	ロザリオビアンコ	6人
第2位	シェインマスカット	10人	第6位	ロザリオロッソ	4人
第3位	藤稔	8人	第6位	甲斐路	4人
第4位	デラウェア	7人	第7位	ヒオオーネ	1人
第5位	ベリー-A	6人	第7位	甲州	1人

どうして?

1位の巨峰が好きな理由

- ・ぶどうといえは巨峰だから
- ・大きくて食べごたえがあるから
- ・あまくておいしいから
- ・いっぱい作られていて手に入れやすいから

なでなど...

考察

ぶどうの作付面積が年々減少していることから、ぶどう農家の高齢化や山梨の都市化によって土地の減少などが考えられる。また、時代と共に消費者のニーズに合わせたぶどうの生産、品種改良、された皮のむきやすさ種のないぶどうがもたらされていることも分かる。これからは、どんどん新しい品種が増えて、昔から栽培されていたぶどうが減少し姿を消してしまうことも考えられる。これ以上作付面積が減少しないようにしてほしいと思う。

